

日英鉄道友好 150 周年記念レセプション
における林肇駐英国日本国大使挨拶（仮訳）

御列席の皆様、

日英鉄道友好 150 周年を記念し、皆様を日本大使館にお迎えしてこのようなイベントを開催できることを大変嬉しく思います。ヒュー・メリマン鉄道大臣、グレッグ・クラーク英日議連会長をはじめ、日英両国の鉄道関係者を代表する多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、感謝申し上げます。今宵、このように多くの方々にお集まりいただいたことは、過去 1 世紀半にわたって両国が鉄道分野で築き上げてきた深い絆を証明するものです。

参加者の皆様の多くはご存知でしょうが、日本初の鉄道が新橋駅と横浜駅の間で開通したのは 1872 年、より正確に言うと 1872 年 10 月 14 日のことでした。世界初の鉄道が英国で開業してから 50 年後のこととなります。この日本初の鉄道路線は、鉄道を通じた日英協力の始まりでもありました。日本の鉄道路線を最初に走った列車は、当時イギリスから輸入された蒸気機関車でした。日本の鉄道の父として知られるエドモンド・モレルを含む、イギリスを中心とした約 300 人の外国人技師が日本に専門知識を提供し、鉄道建設プロジェクトを監督し、日本の技師達を教育し、彼ら自身が専門家になれるように指導してくれました。

1893 年には、著名なイギリス発明家リチャード・トレビシックの孫、リチャード・フランシス・トレビシックの協力を得て、初の国産機関車を製造しました。その後、多くの英国人専門家が日本の鉄道網の整備に貢献してくれました。この地道な努力の成果として、日英鉄道協力が始まってから約 1 世紀後の 1964 年には新幹線が開業するまでになりました。

以来、鉄道技術の開発のための努力が続けられてきました。その結果、日本は先進的な鉄道システムを享受する世界有数の国となりました。それと同時に、先進的な車両や鉄道装備品を製造する主要な生産国の一つにもなりました。

このような状況下で、日本が海外の鉄道に貢献するようになったのは、ごく自然なことだと感じます。長い間、日本の鉄道整備に貢献してくれた英国での活動もその一つとなります。今、多くの日本人が、個人も産業界も、英国に恩返しをしたいと願っています。

今日、日英両国は鉄道分野における専門知識や技術の共有のために積極的に協力しています。例えば、日立は2005年にHS1、2012年に都市間特急車両更新プログラム（IEP）の高速鉄道車両を受注し、英国全土に工場を建設して雇用を創出することで英国経済に貢献してきました。2021年には、日立・アルストム連合がHS2プロジェクトの車両供給契約を受注しました。三井物産は英国の鉄道運営事業に参入し、同国の交通システムに貢献しています。また、JR東海は30年以上にわたって専門家交流プログラムを実施しており、両国から220人以上の職員が参加・交流する機会を得ています。実際、今晚、日本での研修プログラムを修了した英国側50名以上の皆様と、今年同じ目的で来日する予定の10名が参加して下さっているのは嬉しい限りです。

日英両国の政府もまた協力関係を構築してきました。日英鉄道作業部会は、関係省庁・産業界間の対話の枠組みであり、2002年以来毎年1回会合を開き、両国が直面する共通の課題について話し合い、協力関係を強化してきました。今日、こうして日英の協力関係をお祝いできるのも、日英両国、官民双方の人々の努力によって成し遂げられた成果であることは間違いありません。さらに、私たちの協力関係は次世代にも引き継がれていくことでしょう。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、多くの日英の子供たちが「機関車トーマス」を楽しんで見えています。「鉄道の英雄」として描かれたヒロという日本の機関車は、トーマスとの特別な友情で結ばれています。

最後に、今晚、皆さんと日英共通の歴史と長きにわたる友情を振り返ることができることを誇りに思うとともに、鉄道分野での協力には大きな可能性があることと強く信じていることを申し上げたいと思います。鉄道業界の発展のためだけでなく、将来にわたる両国民の全体的な繁栄のために、この両国の可能性を実現するために、私たちが協力し続けられることを切に願っています。

本当にありがとうございました。